

さらなる夢の出発点に

私たちは昔から、食べ物やエネルギー、資材など、生活必需のものを身の回りの自然から得て暮してきました。里山や田畑など“二次自然”と言われるものは、人々が自然の摂理に沿って工夫しながら“人の手”を加え、いろいろな恩恵を受けてきた結果できたものでした。そしてそれは地域の生業を生み、多様な生物も育みました。

東北はその中にあって、食糧や薪、炭などのエネルギーの一大生産地として、地域内はもとより、全国にそれらを供給していました。ところが戦後、安価な化石燃料や電気が急速に普及し、エネルギーを外部からお金で買うようになりました。そして気付いてみると、足元にある豊富な資源さえ使わない社会になるとともに、多くの地域の産業も、そして人々さえも次第にいなくなってしまうました。そして現在も、エネルギーや資材を得るために、多くのお金が域外に流出しつづけています。

東日本大震災では、私たちは、食べ物や水、エネルギーを外部に依存することの怖さを思い知らされました。そして、これからの石油やガス、電気の値上がりは、私たちの生業や暮らしの大きな不安材料になっています。私たちの生活に必需なものを、自らの手で自給できることの安心と豊かさを再認識すべき時代が来たと言えるでしょう。

加美町には現在も豊富なエネルギーや資源があり、それらが私たちの暮らしの源として、今後も重要な宝であり続けることに変わりはありません。いや、地域のエネルギーや資源の利活用は、寂しくなりつつある地域を再び活性化する鍵と言えるでしょう。エネルギーや資源が豊富にある地域だからこそできる取り組みなのです。加美町の「地域エネルギー活用調査・企画事業」はこのような視点から始まりました。

もとより、我々の暮らしにおいて、エネルギーはそれ単独で機能しているのではなく、我々の営みや生業に必要なものとしてそれらに組み込まれているものです。また、地域のエネルギーは地域に薄く広く分布し、その特性は地域によって大きく異なります。地域の自然や暮らしは地域の人々が一番良く知っています。そのため、地域エネルギーの利活用は、生活者、生業からの視点と、地域の人々自らの取り組みが不可欠です。このため本事業では、エネルギーやその利用設備を出発点にするのではなく、地域エネルギーの利用についての、町民のボトムアップによる議論や取り組みを重視し、それらを行政や有識者が下支えする形ですすめてきました。

本事業では、委員会や各地区でのワークショップなどを通して、地域のエネルギーや資源を見つめ直し、地域エネルギーの利活用についていろいろなアイデアや可能性について話し合ってきました。本報告書ではそれらの中からいくつかの構想を取り上げ、モデル事業として提案しています。これらの構想を実現するためには、解決しなければならない多くの課題や問題点が存在します。しかし、構想や夢の全体像が具体的に見えてくれば、それらの問題点の解決策や、それを実現するための行政や地域の役割が具体的に見えてくるものです。

今後は、これらの構想を、どんなに小さくとも地域の実体のある活動として具体化し、それらを、知恵を出し合いながら大きくしていくことが必要です。本報告書がそれらの活動と、さらなる夢の出発点になれば幸いです。